

南部手踊り 発祥の地

数百年の伝統 手踊りの神髄がここにある

南部手踊りは、名川地区が発祥の地とされ、数百年も前から郷土に引き継がれてきた民舞踊です。「南部甚句」「南部あいや節」「南部よされ節」「南部馬方三下り」「南部追分」「南部荷方節」「南部都々逸」の七つの踊りがあり、南部七踊りとも呼ばれています。



名川から発祥、広がった南部七踊り

南部手踊りは、もともと宴会などで座興的に楽しんでいた踊りでしたが、時代の進展とともに全国的に広がりをみせ、現在は多くの芸人から親しまれるようになりました。町では、先人が残してくれたこの貴重な文化遺産「南部手踊り(七踊り)」を無形文化財に指定(平成6年12月)し、翌年から「南部七踊り全国大会」を開催。さらに伴奏である民謡も「南部七大民謡(七唄)」として無形文化財に指定(平成10年11月)しています。毎年9月には「南部七唄七踊り全国大会」が開催され、唄や踊り自慢の芸人達かのびやかな唄声と優美な手踊りを競います。

南部手踊りの創造と普及に心血をそそいだ二人の先人



●創始者
くりやま
栗山由太郎
よしたろう

安政6年(1859)、剣吉生まれ。芸事が好きな家庭で育つ。手踊り太夫と呼ばれ、芸風の洗練に取り組み、現在の形に仕上げた。名川地区が「南部手踊り発祥の地」として今日知られるのは、由太郎の功績による。



●普及功労者
なてまつ
館松榮源次郎
えいげん じろう

明治27年(1894)、下斗賀生まれ。由太郎に師事、六十年余りを芸一筋に生きた。創作・振り付けなども行って七唄七踊りの芸域を広げて、多くの弟子を育てた。昭和44年、出演中に舞台上で倒れた。南部七唄七踊りの普及に魂を燃やした人生だった。

南部七踊りの特徴



なんぶ どといつ
南部都々逸

もともとほおかぶりをして素手で踊られていましたが、それを館松榮源次郎氏が独特な「カツラ」「番傘」「二段返し(引き抜き)」の工夫をし、今の踊りに創作しました。天保時代に江戸の都々逸坊扇歌が「潮来節」「よしこの節」を作詞改曲して唄ったのがはじまりで、それが流れてこの地に入ったといわれます。



なんぶ あいやぶし
南部あいや節

手拭いを使って踊ります。七踊りの中では一番テンポが速く、威勢のよい踊りです。九州の「平戸あいや」または鳥根県あたりの「はいや節」が北上し、南部に来て「南部あいや節」になりました。



なんぶ にかたぶし
南部荷方節

番傘をたくみに使って踊ります。もともとは新潟節と呼ばれていました。新潟から海を北上し、やがて馬淵川を往来する船頭衆により伝えられたといえます。傘を手を持ち踊る姿から往時がしのべられます。



なんぶ うまかたさんざがり
南部馬方三下り

わらじを履いて、馬の手綱を意味する長い紐を肩にかけ、笠を使って踊ります。信州の「小諸馬子唄」から派生した「道中馬方節」に三下り調の三味線伴奏がついて、この地に流れついたといわれます。



なんぶ よされぶし
南部よされ節

座敷踊りから発生したため女踊りが多く、素手のみで踊ります。よされの語源については、「やませ」の影響で凶作に苦しんだ人々が「いやな世は早く去れ」と念じたのがはじまりとされています。



なんぶ じんく
南部甚句

南部手踊りの基本とされる踊りで、素手のみで踊ります。「南部あいや節」が宮城県塩釜に伝えられ「塩釜甚句」となり、それが逆移入されて「八戸甚句」となり、昭和30年代に「南部甚句」として定着しました。



なんぶ おいわけ
南部追分

素手だけの踊りと、手拭いを持った踊りの2種類あります。発生は北国街道と中山道の間の追分宿で飯盛り女たちが唄ったものがはじまりとされています。全国でも珍しい三味線伴奏の追分です。

報恩碑

南部手踊りの歴史に残る「栗山由太郎」と「館松榮源次郎」

弟子達は両師匠の恩に報いるため、大正13年に栗山氏への報恩碑を剣吉地区の陽広寺に、また昭和59年に館松氏への報恩碑を上斗賀地区の東円寺に建立しました。両師匠の功績をたくさんの方々知ってもらうため、平成9年に両寺から「南部芸能伝承館」の敷地に移設しました。



栗山氏報恩碑 手踊り由来碑 館松氏報恩碑

南部芸能伝承館

南部手踊り伝承活動の拠点「南部芸能伝承館」は、名川地区発祥の南部七踊りや南部七唄、町無形文化財のえんぶりなど、先人から伝えられた郷土芸能の数々を後継者に伝承しながら広く普及させるための施設で、平成10年9月に建築されました。南部荷方節に用いられる「からかさ」をモチーフした屋根が特徴です。約200人が収容できる大ホールのほか、野外ステージや会議室、作業室もあり、多目的に活用されています。



TEL 0178-75-0977 南部町大字斗賀字水間50
問い合わせ先 剣吉公民館 TEL 0178-75-0797